

# 各部活動のあゆみ

## 〈全日制部活動〉

### ■体育系

ソフトテニス部

野球部

サッカー部

バレーボール部

陸上部

ラグビー部

山岳部

バスケットボール部

卓球部

バドミントン部

柔道部

剣道部

ボクシング部

### ■文化系

吹奏楽部

演劇部

美術部

写真部

情報処理部

茶道部

書道部

新聞局

放送局

図書局

## 〈定時制部活動〉

### ■体育系

バドミントン部

卓球部

バスケットボール部

### ■文化系

軽音楽部

写真部

新聞局

### ■特集

第94回全国高等学校野球選手権大会出場

## 〈全日制部活動〉

## ソフトテニス部

外国語科 野村 晃 司

旭工在籍二十三年目、三度目の周年行事と二度目の記念誌寄稿である。

この十一年の旭工ソフトテニス部の大会成績は、コロナ禍でほぼすべての大会が中止になった令和二年を除き、高体連全道へは九年連続、新人戦団体全道（団体選抜道予選）へは六回、国体道予選へは六回、新人戦個人戦全道へは八回、インドア全道へは五回の出場を果たした。

全道での主な結果は、新人戦団体戦でベスト四が一度、ベスト八が三度、新人戦全道ダブルスでベスト八が一度、シングルスでベスト八が一度、そして何よりも嬉しいのは、平成二十五年の光好（土木三年）・鹿野（土木三年）ペアの北部九州（大分）インターハイ個人戦出場を果たしたことである。中学校ではほぼ無名の選手を公立高校が全国大会まで導いたことは、強豪選手をかき集める私立高校に一矢報いたであろうと自負する。

私が旭工に赴任した平成十一年には、全部員がわずか七名だったが、その後毎年のように二けたの新入部員が入部するようになった。平成二十八年には、道内の高校ソフトテニス部最大規模の学校になった。

## ・十一年間の部員数の推移

平成二十三年・四十一名  
平成二十四年・四十五名  
平成二十五年・四十四名  
平成二十六年・四十六名  
平成二十七年・四十八名  
平成二十八年・五十六名  
平成二十九年・五十二名  
平成三十年・四十八名  
令和元年・三十九名  
令和二年・三十一名  
令和三年・三十四名

## ・十一年間の顧問の推移

平成二十三年 野村晃司（支部専門委員に）  
平成二十四年 島貫勇次・三原 現（函館工業へ転出）  
平成二十五年 大森善幸 着任（二年間）  
平成三十年 野村晃司（道専門委員に）  
中山憲昭 着任  
佐藤靖尚（函館工業教頭へ）  
中山憲昭（函館工業へ転出）  
黒川朋寛 着任（二年間）  
廣瀬孝男 着任（一年間）  
令和元年 谷 勝利 着任  
令和二年 島貫勇次先生 ご勇退  
鈴木理恵・山岸 史 着任  
令和三年 谷 勝利（逝去）  
笹木裕生 着任



現在は、野村（平成十一）を中心に、山岸（令和二）、鈴木（令和二）、笹木（令和三）の四名の顧問と、一年生十名、二年生十名が、「心」「技」「体」そして「人」の四つを鍛えることを重点に全道優勝・全国出場を目標にして日々練習に励んでいる。

テニスコートも、令和三年度のグラウンド整備に乗じて凹凸を修正できるよう、フェンスを一部カットし、重機が入れるようにしてもらった。

平成二十一年から令和元年九月まで、人数での練習方法等を指導いただいた酒井眞一さん、これまで旭工ソフトテニス部でご指導いただいた先生方、所属部員を応援してくれた保護者、OB、そして、何よりも頑張った部員に対し、ここに感謝いたします。



## 野 球 部

電子機械科 上 村 健 太

「誠意・熱意・創意」の部訓を心に日々野球部の目的である「野球を通じた人間形成」と目標である「甲子園で校歌を歌う」を達成するため活動しています。

この十一年を振り返ると、平成二十四年に七年ぶり五回目の甲子園出場を果たし、龍谷大平安（京都）との戦いも九回ツーアウトまでリードという展開から惜しくも延長十一回で敗れたものの旭工野球部の力を全国へ印象づけることができました。平成二十五年、平成二十六年には北海道大会、全道大会には出場するものの、甲子園出場は果たせませんでした。平成二十七年から平成二十九年までの三年間は全道大会の出場もなく厳しい時期を過ごしました。その後、平成三十年に五年ぶりの北海道大会出場、令和三年に八年ぶりの北海道大会での勝利もありましたが、最後の甲子園出場から十年が経過しました。

平成に入り五度の甲子園出場、北海道の公立高校で甲子園最多出場校という誇りとプライドを胸に、旭工野球部にとって令和初の甲子園出場とまだ達成されていない甲子園での勝利を叶えるべくより一層熱のこもった活動を行っていきます。そして応援してくださる皆さまに、伝統の縦縞のユニフォームを着た選手が甲子園で校歌を歌う姿をお見せします。

### 【平成二十四年度から令和三年度までの主な成績】

○平成二十四年度（2014年）

第九十四回全国高等学校野球選手権大会

〔北海道大会〕

一回戦 旭川工業 4―2 旭川東

二回戦 旭川工業 3―2 北見北斗

準決勝 旭川工業 10―0 帯広三条

決勝 旭川工業 2―1 遠軽

（七年ぶり五回目の甲子園出場）

〔全国大会〕

二回戦 旭川工業 7―8 龍谷大平安

○平成二十五年（2015年）

第九十五回全国高等学校野球選手権大会

〔北海道大会〕

一回戦 旭川工業 7―3 標準

二回戦 旭川工業 0―4 旭川龍谷

○平成二十六年（2016年）

第五十三回春季北海道高等学校野球大会

〔全道大会〕

一回戦 旭川工業 3―0 函大有斗

二回戦 旭川工業 3―4 東海大四

第六十七回秋季北海道高等学校野球大会

〔全道大会〕

一回戦 旭川工業 10―5 釧路北陽

二回戦 旭川工業 1―4 北照

○平成三十年（2018年）

第百回全国高等学校野球選手権大会

〔北海道大会〕

一回戦 旭川工業 1―3 旭川龍谷

○令和三年度（2021年）

第百三回全国高等学校野球選手権大会

〔北海道大会〕

一回戦 旭川工業 7―6 北見柏陽

二回戦 旭川工業 2―5 滝川西

### 【平成二十四年度から令和三年度までの顧問】

平成二十六年 稲垣和孝

（札幌琴似工業高へ転出）

平成二十七年 小原 茂（上川高へ転出）

小川真輝（小樽工業高へ転出）

平成二十九年 宮澤 透

（札幌琴似工業高へ転出）

平成三十年 佐藤桂一〔元監督〕ご勇退

平成三十一年 阿部隆厚〔元コーチ〕ご勇退

兼子 敦（釧路工業高へ転出）

令和二年 藤田朋軌

（指導主事として転出）

現在、伊藤智教部長、千葉智弘監督、穂積哲哉コーチ、日野秀一コーチ、上村健太コーチの五名態勢で指導にあたっている。

## サッカー部

建築科 松岡 祐介

サッカー部では、部活動を通してサッカーの技術だけではなく、仲間に対する思いやり、支え合い、コミュニケーション力等、人間性を豊にすることを目指し日々活動しています。

自ら行動し考える力を養い、目標である全道大会、全国大会出場を目指して1日1日を大切に丁寧に活動していききたいと思います。

## 【春季大会】

- 平成二三年度 優勝（ブロック）
- 平成二四年度 準優勝（ブロック）
- 平成二五年度 3 位（ブロック）
- 平成二六年度 準優勝（2位リーグ）
- 平成二七年度 3 位（ブロック）
- 平成二八年度 準優勝（ブロック）

## 【高体連北海道高等学校サッカー選手権大会】

- 平成二三年度 旭川支部予選ベスト16
- 平成二四年度 旭川支部予選ベスト16
- 平成二五年度 旭川支部予選3位
- 平成二六年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二七年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二八年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二九年度 旭川支部予選ベスト8

- 平成三〇年度 旭川支部予選ベスト8
- 令和元年度 旭川支部予選ベスト8
- 令和二年度 旭川支部予選ベスト16
- 令和三年度 旭川支部予選ベスト8

## 【全国高校サッカー選手権大会】

- 平成二三年度 旭川支部予選3位
- 全国高校サッカー選手権大会北海道予選
- 1 回戦 小樽水産 3-0
- 2 回戦 北海道大谷室蘭 0-4
- ベスト16

- 平成二四年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二五年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二六年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二七年度 旭川支部予選ベスト16
- 平成二八年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成二九年度 旭川支部予選ベスト8
- 平成三〇年度 旭川支部予選ベスト8
- 令和元年度 旭川支部予選ベスト8
- 令和二年度 旭川支部予選ベスト16
- 令和三年度 旭川支部予選ベスト8

## 【新人戦】

- 平成二三年度 3 位
- 平成二四年度 準優勝（ブロック）
- 平成二五年度 準優勝（ブロック）
- 平成二六年度 準優勝
- 平成二七年度 準優勝（ブロック）

## 【高円宮杯北海道ブロックリーグ道北】

- 平成二三年度 1部リーグ 5位
- 平成二四年度 1部リーグ 4位
- 平成二五年度 1部リーグ 8位
- 平成二六年度 2部リーグ 3位
- 平成二七年度 2部リーグ 5位
- 平成二八年度 2部リーグ 3位
- 平成二九年度 2部リーグ 3位
- 平成三〇年度 2部リーグ 5位
- 令和元年度 2部リーグ 8位
- 令和二年度 2部リーグ 8位

## 【フットサル選手権大会】

- 平成二四年度 4 位
- 平成二五年度 3 位（ブロック）
- 平成二六年度 3 位（ブロック）
- 平成二七年度 ベスト8
- 平成二八年度 4 位（ブロック）
- 平成二九年度 4 位
- 平成三〇年度 3 位（ブロック）
- 令和元年度 3 位（ブロック）
- 令和二年度 4 位（ブロック）

## 【現スタッフ】

監督 松岡祐介 コーチ 遠藤祥悦 森信博

## バレーボール部

土木科 椎 野 泰 彦

バレーボールを通して『信頼される人』になること。そして、将来は『社会に貢献できる人材』になることを目標としています。

これからも地域の方に応援してもらえよう、感謝の気持ちと謙虚な姿勢を忘れずに、全国大会出場を目指して日々の活動に取り組んでいきたいと考えています。

### 【平成二十四年度から令和三年度までの主な成績】

○平成二十四年度（2012年）

高体連（北見）「全道大会決勝トーナメント」

旭川工業 2-0 釧路湖陵

旭川工業 0-2 札幌藻岩（ベスト8）

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 2-0 札幌南陵

旭川工業 1-2 啓北商業

○平成二十五年度（2013年）

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 2-0 浦河

旭川工業 1-2 札幌北

○平成二十八年度（2016年）

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 2-0 倶知安

旭川工業 2-0 札幌工業

旭川工業 0-2 東海札幌（ベスト8）

○平成二十九年度（2017年）

高体連（札幌）「全道大会・予選グループ」

旭川工業 0-2 釧路工業

旭川工業 0-2 北海

春高バレー（野幌）「全道大会」

旭川工業 2-0 江差

旭川工業 1-2 北海

○平成三十年度（2018年）

高体連（小樽）「全道大会決勝トーナメント」

旭川工業 0-2 釧路工業

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 0-2 帯広三条

新人大会（函館）「全道大会」

旭川工業 2-1 札幌工業

旭川工業 0-2 恵庭南

○令和元年度（2019年）

高体連（稚内）「全道大会決勝トーナメント」

旭川工業 0-2 とわの森

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 2-0 深川西

旭川工業 2-0 札幌東陵

旭川工業 2-0 室蘭東翔

旭川工業 0-2 札幌藻岩（ベスト8）

新人大会（千歳）「全道大会」

旭川工業 0-2 科学大高

○令和二年度（2020年）

春高バレー（きたえーる）「全道大会」

旭川工業 2-0 滝川

旭川工業 2-0 苫小牧工

旭川工業 0-2 科学大高（ベスト8）

新人大会（北見）「全道大会」

旭川工業 1-2 岩緑陵

○令和三年度（2021年）

高体連（旭川）「全道大会決勝トーナメント」

旭川工業 2-0 室蘭東翔

旭川工業 0-2 恵庭南（ベスト8）

春高バレー（野幌）「全道大会」

旭川工業 2-0 滝川

旭川工業 0-2 札幌大谷





## 陸 上 部

保健体育科 岩 岡 勝 人

陸上部は直近10年ではインターハイに出場する選手も輩出するなど、輝かしい成績を残しています。練習は生徒の自主性に任せ、生徒自身がそれぞれの目標に向かって活動しています。個人種目の競技ですが、学校名を背負って走るリレーでは、団結力の強さを如何なく発揮し、インターハイ出場を目標にして、生徒たちは日々切磋琢磨して練習に励んでいます。

### 【平成二十四年度から令和三年度までの主な成績】

○平成二十四年度（2012年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）走高跳4位・6位

北海道高等学校体育連盟新人陸上競技大会

（男子）走高跳4位

北海道選手権大会

（男子）走高跳2位

国体予選

（男子）走高跳5位

高校総体

（男子）走高跳2名出場

○平成二十五年度（2013年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）走高跳2位

北海道高等学校体育連盟新人陸上競技大会

（男子）走高跳5位 棒高跳決勝、砲丸投決勝

○平成二十六年度（2014年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技旭川支部予選会

（男子）総合優勝

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）八種競技優勝 加藤 学希

国体予選

（男子）棒高跳5位

高校総体

（男子）八種競技21位

○平成二十七年（2015年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）走高跳5位

国体予選

（男子）棒高跳8位、三段跳7位

○平成二十八年度（2016年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）八種競技5位

第69回北海道高等学校駅伝競走大会

（男子）第10位（旭川龍谷高校と混合チーム）

○令和元年度（2019年）

北海道高等学校体育連盟新人陸上競技大会

（男子）走高跳3位

○令和2年度（2020年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

大会中止

○令和3年度（2021年）

北海道高等学校体育連盟陸上競技大会

（男子）4×100m R7位

（小野田、飯野、北野、高橋）

北海道高等学校体育連盟新人陸上競技大会  
大会中止



## ラグビー部

保健体育科 中澤孝弘

八十周年記念誌発行にあたり、この十年の活動を振り返ると、9回の北海道大会出場、そして平成二十八年度には創部68年目にして北海道大会を初制覇して、念願の「花園」に出場するという旭川工業ラグビー部の歴史に大きな足跡を刻んだ。

現在は部員数も少なく、厳しい現状ではあるが、2回目の花園出場を目指しながら必死に練習をしております。

### 【平成二十四年度から令和三年度までの主な成績】

○平成二十四年度（2012年）

第六十五回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 88―0 釧路工業

準決勝 旭川工業 19―27 富良野

○平成二十五年度（2013年）

第六十六回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 12―51 羽幌

○平成二十六年度（2014年）

第六十七回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 36―22 帯広工業

準決勝 旭川工業 7―55 中標津

○平成二十七年（2015年）

第六十八回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 11―0 旭川龍谷

準決勝 旭川工業 7―39 北見北斗

○平成二十八年度（2016年）

第六十九回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 52―38 帯広工業

準決勝 旭川工業 33―29 富良野

決勝 旭川工業 47―40 北見北斗

【創部68年 北海道大会初制覇 花園出場】

【全国大会】

一回戦 旭川工業 5―69 高鍋（宮崎県代表）

○平成二十九年度（2017年）

第七十回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 24―26 中標津

○平成三十年度（2018年）

第七十一回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 0―61 旭川龍谷

○令和元年度（2019年）

第七十二回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 24―0 帯広柏葉

準決勝 旭川工業 7―37 遠軽

○令和3年度（2021年）

第六十九回北海道高等学校ラグビーフット

ボール南北選手権大会

【北海道大会】

一回戦 旭川工業 0―73 遠軽

## 山岳部

電子機械科 新井 晃

冬期の本格的なものから日帰り登山まで、その形態が幅広いことが登山の特徴の一つだと思います。

旭工山岳部にはこんな目標がありました。卒業するまでの三年間をかけて校舎の窓から見える十勝く大雪の山並みを端から端まで完全縦走をすることです。しかし、この十年間で成功できた生徒はわずか十四名です。

完全縦走が難しい理由の一つは、途中下山することができない長いルートを含むからです。日帰りや一泊程度の日程で入山し、小刻みに山行を重ねて達成できるわけではないということです。

そのルートは、大雪山系トムラウシ山から十勝岳連峰オプタシケ山の区間です。アウトドブームのオンシーズンでもめったに他の登山者に出会うことはありません。途中体調を崩したり、ケガをしたりしても下山することはできません。また、携帯電話もほとんど使えません。雪溪等の水場も少なく、残り少ない水を分け合うこともあります。目的地までたどり着けず、ビバーク状態になったときもありました。悪天候のときは、冷たい雨に打たれ、体力も限界になり歩けなくなつた後輩を励ます姿もありました。荷物が重く

て歩けない生徒がいたら、皆で荷物を分け合つて歩き続けました。二十kg超のザックを背負い、十二時間歩くこともありました。生徒達が励まし、支え合いながら走破しなくてはならない区間です。



ヒサゴ沼

この区間は厳しいばかりではなく、素晴らしいところもあります。登山者が少ない分、植物が踏み荒らされていないため、天然記念物の高山植物のお花畑の中で野営することもできます。また、三川台とよばれる付近はこの世のものとは思えない風景を眺めることができます。

三年に一度、この区間を夏山縦走のルートに入れるようにして、卒業までの三年間で完全縦走を目指してきました。目標実現のためには生徒の協力が不可欠なため、生徒に山に連れて行ってもらっていると感ずることもあります。生徒達と一緒にこのような経験ができたことは本当にかげがえのないことだったと思います。

今はコロナ禍で、特にこのような数日かけてのテント泊での登山はできません。「富士山に登って山岳の高さを語れ 大雪山に登って山岳の大きさを語れ」(大町桂月) 山岳部の生徒達には、恵まれた広い山域で大いに活躍して欲しいと思います。



春の十勝岳



## バスケットボール部

建築科 前野 潤

「闘魂・心をこめて」を心に日々「人間形成」と目標である「全国大会で戦おう」を目指し活動しています。公立高校で戦う大変さもありますが、旭工でバスケットがしたいと集まってくれた選手は精一杯努力し多くの財産を残してくれました。その十一年を振り返り、戦歴をまとめました。

### 【新人大会】

- 平成二三年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 小林卓馬(2自)
- 平成二四年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 平成二五年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 平成二六年度 旭川地区 優勝・全道三位  
優秀選手 後藤良祐(2土)
- 平成二七年度 旭川地区 優勝・全道三位  
優秀選手 武良雄大(2土)
- 平成二八年度 旭川地区 第三位・全道出場
- 平成二九年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 平成三〇年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 實崎颯汰(2化)
- 令和元年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 多胡駿哉(2電)
- 令和二年度 旭川地区 第三位・全道出場
- 令和三年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 32大会中29回全道出場

### 【高体連】

- 平成二三年度 旭川支部 第三位・全道出場  
ベスト5賞 小沢 純(3建)
- 平成二四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 大久保尚人(3情)
- 平成二五年度 旭川支部 準優勝・全道出場  
ベスト5賞 坂口 翔(3自)
- 平成二六年度 旭川支部 準優勝・全道出場  
ベスト5賞 佐藤謙輔(3機)
- 平成二七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 片桐航也(3土)
- 平成二八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 室本甲斐(3機)
- 平成二九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 平川一弥(3建)
- 平成三〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 大箭航平(3化)
- 令和元年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 仲田 卓(3土)
- 令和二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 玉田侑哉(3情)
- 令和三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 武良雄大(3土)
- 令和四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 庭田悠我(3機)
- 令和五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野 慎(3化)
- 令和六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 北島陸矢(3化)
- 令和七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和二九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和三九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和四九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和五九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和六九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和七九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和八九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九一年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九二年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九三年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九四年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九五年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九六年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九七年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九八年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和九九年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)
- 令和一〇〇年度 旭川支部 優勝・全道出場  
ベスト5賞 前野和敬(2建)

旭川支部大会 優勝25回 準優勝13回  
全道大会へは35年連続全道出場中

### 【選抜優勝大会】

- 平成二三年度 旭川地区 優勝・全道出場
- 平成二四年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 狩野圭祐(2情)
- 平成二五年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 平成二六年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 平成二七年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 平川一弥(2建)
- 平成二八年度 旭川地区 優勝・全道三位  
優秀選手 武良雄大(2土)
- 平成二九年度 旭川地区 第三位
- 平成三〇年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 令和元年度 旭川地区 準優勝・全道出場
- 令和二年度 旭川地区 優勝・全道出場  
優秀選手 前野和敬(2建)
- 旭川地区大会 優勝19回 準優勝10回  
30大会中29回全道出場

### 【現スタッフ】

部長 安藤卓也・HC 前野潤・AC 笠木元太  
顧問 堀澤秀之・外部C 犬飼蒼空(R元卒)  
・前野和義・トレーナー 是元佑太(H19卒)  
・山田陽彩(H17卒)

## 卓球部

電子機械科 小原 弘 司

コロナの影響で練習時間、対抗試合の制限や大会中止などがあつて思うように活動できていない。特に令和2年度は高体連支部予選、全道大会が中止となり、この年に3年生であつたメンバーはとても残念な思いをしたことであろう。

この10年、「たれば」ではあるが、令和2年度のメンバーが最強であつたと思つている。この年の高体連は3年生の藤川君、大村君、長門君、2年生の野田君をレギュラーとしたメンバーで臨む予定であつた。

前年度の選抜支部大会では常勝旭川実業高校に2―3で惜敗しており、オーダー、試合展開次第で優勝できるチームだと思つていた。

個人ダブルスで藤川・野田組が準優勝、大村・長門組がベスト4、全道大会学校対抗では、滝川西に2―3では破れはしたものの、ベスト8まであと一歩、あと一点という位置にいた。

一番残念で悔しい思いをしたのは出場できなかった3年生だと思うが、私も期待が大きかった。なにしろ、選抜大会が終わつてすぐ、半年後の高体連全道大会の宿泊予約をしていたほどに強いチームであつたのである。

この年の選抜大会では、野田君が部長となりチームを引っ張つた。支部大会で旭川実業に敗れたものの、全道大会で再び旭川実業と対戦す

るまで勝ち上がり、全道ベスト8という成績を残した。

卓球という競技は、上手な人と練習するほど上達するものなのかもしれない。野田君はこの10年間で一番強かつたがそれだけではなく、パートナーの上原君やチームメイトを鍛え、練習前にはストレッチや筋トレなどを実施し、技術の習熟だけでなく、チーム全体の意識や体力の向上を図つた素晴らしい選手、キャプテンであつた。

平成28年度は3年生に佐藤（潮）君、末岡君、熊谷君、渡邊君、2年生に小池君、篠原君、水尾君、木村君、古川君がいた。チームも強かつた。このときの3年生は選手権、国体、選抜、高体連すべての大会で、全道大会に出場した。

2年生も個人戦で全道の出場権を何人も獲得するメンバーであつた。この学年で一番強かつた水尾君が試合に負け大泣きしていたことを思い出す。

平成27年は武田君がキャプテンだつた。武田君はとにかくまじめ。コツコツコツ練習を積み上げていた。この年の高体連は専門部枠で全道代表校が1校増え滑り込んだ。佐藤（潮）君が「武田先輩を全道に連れて行く」と言つて奮闘していた。個人戦では越智君がいつもいい結果を出していた。はっぱを掛けるあまり、全道大会出場権を獲得したらおごるなどと言つたときにかぎって、頑張ってくれて、散財をしたものである。

平成25年の高体連では旭川支部開催枠で3位

になり、全道大会へ進んだ。中心メンバーは3年の大城君、上村君、加藤君、山口君、藤沢君だつた。この年は同一学年メンバーで団体戦を戦つていた。大城君は1年生の時から各大会で全道へ出場していたが、卒業しても旭川市内の大会に参加している。卓球を続けてくれていることがとてもうれしく思う。

平成23年には中原君、柴田君、高森君らがいた。テクニクと創造性に優れたファンタジスタ柴田君の意外なプレーを思い出す。

残念ながらすべての選手を紹介することはできないが、選手それぞれが卓球というスポーツを楽しむ、技術を向上させてきた。

それも、いままで御指導いただいた先生方、旭川卓球協会やOBの方々、保護者の御協力、応援があつてのことだと思ふ。

何よりも頑張つた選手・部員に対し、感謝する。



## バドミントン部

保健体育科 富 樫 潤

### 一 活動内容

旭工バドミントン部は一九六〇年に創部され、今年で六十二年目になります。過去十年間を振り返って現在までの活動を紹介いたします。

この十年間の旭工バドミントン部は毎年全道大会に出場しているものの、優勝はなく、全国大会常連であった、全盛期からは遠ざかっています。しかし、今年度より長年監督を務めていた原拓也先生が退職され二十二年ぶりに監督が変わるという、大きな転換期を迎えました。選手たちはこうした環境の変化から戸惑いや迷いもある中、「強豪旭工復活」を合言葉に日々厳しい練習に汗を流しています。

新生旭工バドミントン部のスローガンは、「進化と融合です」過去の栄光を決して忘れず、今の瞬間から先へ進んで進化し、伝統校としてのプライドをもつて、新しい時代を自分たちの手で切り開いていくんだという想いが込められています。

現在の部員は三十四名（二年生二十一名、一年生十三名）で、北海道上位プレーヤーから初心者まで幅広い選手層となっています。この競技を通して自分自身に挑戦をし、プレーだけでなく人としても成長できる集団を作り上げ活動しています。今後は名将原先生の意志を受け継ぎ、必ずや北海道を制覇し、全国大会へ出場します。「北海道に旭工あり。」といわれるように伝統を守っていきけるよう監督・選手共々頑張ります。

## 八十周年によせて

前バドミントン部監督 原 拓也

平成十一年四月旭川工業高校に赴任しました。その時の生徒は、良いことにも悪いことにも大変エネルギーがありました。赴任した頃の時代は、成果主義の雰囲気があり、勝てば官軍と言うようなムードがありました。ですからバドミントン部も、全国常連校として、勝つことが優先されていたように思います。当初は初心者の入部は基本認められていませんでした。私がいたときが一番良い大会成績は、選抜全国大会団体ベスト八です。全国各門校の滋賀県の比叡山高校を破った結果でした。無心でバドミントンを楽しんでチャレンジして得た結果です。その頃からスマイル&チャレンジと言う言葉を使うようになりました。また、全国で活躍しても、意外に生徒たちは学校から応援されていない感じがしました。なんとなく自分中心の行動が多く、感謝と言う気持ちが少なかったように思います。ですから、何とか応援されるチームを目指したいと考えるようになりました。その後、全国中学校バドミントン大会が旭川で開催された後、旭川実業高校で全国中学大会に出場した中学生で、男子チームも結成されたことから、本校への男子生徒のバドミントン経験者の流れが変わって、全道大会には参加するも全国の切符は厳しい状態になりました。しかし、その後初心者や女子生徒など多くの生徒が部活に加入するようになり、毎年四月には四十人程度の部員を抱える大きな部活動になりました。基本的には、バドミントンを通じて人間力アップを目指すようにしました。多くの生徒たちに出

会って、本当にいろいろな面で経験や勉強させてもらった二十二年でした。ただただ感謝しかありません。ありがとうございました。今後とも旭川工業高校のバドミントン部が、学校の中で応援される部活を目指し、バドミントン競技を楽しんで自分に挑戦するきっかけとなり、自分磨きの場になってもらえれば嬉しいと思っています。今後とも、旭工の部活動がますます発展し、それぞれの種目でより良いパフォーマンスを発揮してもらいたいと思っています。

### 二十年のあゆみ

|                 |             |    |
|-----------------|-------------|----|
| 平成二十四年          | 高体連全道大会 団体戦 | 三位 |
| ダブルス 三位（佐藤・西本組） |             |    |
| 平成二十五年          | 高校全道新人 団体戦  | 三位 |
| 平成二十六年          | 高校全道新人 団体戦  | 三位 |
| 平成二十九年          | 高校全道新人 団体戦  | 三位 |
| 令和二年            | 高校全道新人 団体戦  | 三位 |





## 柔道部

体育科 中川 均

旭工に赴任して十五年が過ぎようとしています。昭和六十二年に高校総体男子団体出場の偉業を達成した部が赴任した当時は支部大会のウォーミングアップで自信がなく畳の上にながれなかった部になっていました。

この十年の戦績をみても選手たちは本当に頑張ったと改めて感じました。平成30年には旭川支部高校選手権で初優勝し翌年も優勝しました。旭川の柔道といえば旭川龍谷・旭川大学高校と名門がある中で二度の優勝は本当に生徒の努力の結晶でした。

現在も部訓である『不撓不屈』の精神で全国大会めざし練習に励んでいます。新型コロナ感染症で令和二年の北海道高等学校柔道大会は中止になりました。最後の夏に無念の涙を流した三年生の姿が目に焼き付いています。そうした選手たちの思いを大切に頑張り、近い将来みなさまに全国大会出場とその勇姿をご覧いただけると確信しています。

## 戦績

平成24年度

◎北海道高等学校柔道大会 個人戦出場

◎北海道ジュニア柔道選手権大会

60kg級 土木3 山下 3位

◎高校柔道選手権北海道大会 個人戦出場

平成25年度

◎北海道高等学校柔道大会 個人戦出場

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

男子団体 北北海道 3位

選手：田中、大谷、荻谷、松木、半田、江上

個人戦 90kg級 土木2 田中 3位  
平成26年度

◎北海道高等学校柔道大会 個人戦出場

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会団体・個人戦出場

平成27年度

◎北海道高等学校柔道大会

男子団体 北北海道 3位

選手：江上、半田、稲川、萩澤、太田雅、滝本、井内

個人戦 66kg級 機械3 半田 3位

◎北海道ジュニア柔道選手権大会

55kg級 電気3 江上 3位

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

男子団体 北北海道3位 選手：萩澤、井内、太田、佐々木、結城、稲川 個人戦出場

平成28年度

◎北海道高等学校柔道大会

団体戦 北北海道 準優勝 選手：萩澤、井内、稲川、佐々木、西岡、太田雅、本田、結城

個人戦 90kg級 土木3 井内 3位

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

団体・個人戦出場

平成29年度

◎北海道高等学校柔道大会

団体戦 北北海道 準優勝 選手：井内、大竹、西岡、福田、佐々木燦、本田、結城

個人戦出場

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

男子団体 北北海道 準優勝

選手：西岡、佐々木、高橋心、井内、大竹、高橋

平成30年度

◎北海道高等学校柔道大会

団体戦 北北海道 準優勝

選手：西岡、井内、高橋礼、大竹、畠山、佐々木

個人戦 73kg級 土木3 西岡 準優勝

◎北海道ジュニア柔道選手権大会  
60kg級 土木3 高橋 3位

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

団体戦 北北海道 準優勝 選手：高橋、井内、大竹、芳賀、畠山、松木

個人戦 81kg級 土木2年 井内 3位

無差別級 機械1 畠山 3位

令和元年度

◎北海道高等学校柔道大会

団体戦 3位（元年度より南北統一）

選手：大竹莉、畠山、井内、高橋、松木、大竹佑

個人戦 66kg級 機械3 大竹 準優勝、

73kg級 建築3 高橋 準優勝、81kg

級 土木2 松木 3位、90kg級 土木3

井内 3位、100kg超級 機械2 畠山 3位

◎国体北海道予選会

90kg級 土木2 松木 3位、100kg

超級 機械2 畠山 3位

◎全国高等学校柔道選手権北海道大会

団体戦 北北海道 準優勝 選手：竹内、大竹、慶伊、熊谷大、松木、畠山

個人戦 81kg級 土木2 松木、3位 無

差別 機械2 畠山 3位

令和2年度

◎北海道高等学校柔道大会

新型コロナウイルス感染症のため中止

◎全国高等学校柔道選手権大会 北海道大会

団体出場、個人戦 81kg級 2年土木

大竹 準優勝

令和3年度

◎北海道高等学校柔道大会 団体・個人出場

◎全国高等学校柔道選手権大会 北海道大会

団体出場、個人戦 73kg 土木2 柳島

3位



## 剣道部

理科 酒元陽介

令和四年三月、旭川工業高等学校剣道部は、二年生二名、一年生三名の計五名で活動している。人数の少ない部活であるが、本校剣道部「流汗悟道（人間は汗を流して、初めて本質を知る。真実は実践しなければ体得できない）」を部訓として、月火木金土は道場で稽古、水曜日は筋力トレーニングをしている。

最近では、剣道の経験に富んだ顧問がおらず、日々部員たちと協力をしながら、なんとか活動を継続しているような状況であるが、過去の周年記念誌を紐解いてみると、校内に活動場所がなかった時期もあるようで、今のように活動ができるような環境を整えてくださった先人たちや、思うようにいかない中でも、日々懸命に竹刀を振るう部員たちには、頭の下がる思いである。

さて、私が剣道部を担当し丸四年が経った。その中で気づかされた大切なことがある。それは「挑戦」と「継続」である。四年間、ほぼ毎年のように未経験者や初心者が入部してきた。

どのようなスポーツでもそうであると思うが、高校生で剣道を始めるハードルは高い。まず道着や防具などをそろえるための初期費用が高いこと。主に試合形式が一对一かつ短時間であり決着が一瞬の攻防で決まることなどから、小さいころから競技をしてきたものに追いつけ

ないことなどがある。そんな中でも、彼らは懸命に努力を続ける。わからないことがあれば、頼れる先輩や同級生の仲間に稽古をつけてもらい、理解できるまで、竹刀を振り、汗を流す。その姿に部活動の空気が熱を帯びる。そうして、一つ一つ剣道を体得していく。

そのように努力する彼らでも、試合運びでは到底、経験者には敵わない。しかしながら、ある日突然、チャンスを見逃さず、勝利をつかむ瞬間が訪れる。彼らの努力が実る瞬間である。その時の彼らが、喜びを爆発させる瞬間の輝きは計り知れない。顧問としても感動は一入である。

こうした彼らの活動から、難しいだろう、できないだろうと思われることでも「挑戦」し、「継続」して取り組むことで、なにかを掴むことができるのだと実感した。現在の部員、そしてこれからの生徒たちにも、日々の努力を惜しまないことを期待し、そのいつ訪れるわからない瞬間を掴めるよう願う。

## 十年の歩み

・平成二十三年度

新人全道 二名出場

・平成二十四年度

高体連全道 二名出場

新人全道 ベスト16

・平成二十六年度

高体連旭川支部予選 団体四位

国民体育大会北海道道予選 出場  
・平成二十七年  
新人旭川支部予選 団体二位  
新人全道 予選リーグ二位

・平成二十九年度  
高体連旭川支部予選 個人三位  
高体連全道 一名出場

全道段別 初段の部 三位

・平成三十年度

新人旭川支部予選 女子II部 優勝

新人全道 女子II部 出場

・令和元年度

新人旭川支部予選 女子I部 準優勝

新人全道 女子II部 優勝

新人全道 女子II部 出場

・令和二年度

新人旭川支部予選 女子II部 四位

新人全道 女子II部 ベスト8



## ボクシング部

電気科 福田 章 央

## 活動内容

旭川工業高等学校ボクシング部は、1970年代に「必修クラブ」という教科があり、その中で「ボクシング研究会」ができ、その後ボクシング好きが集まり、1974年に「ボクシング同好会」としてスタートしています。（生徒会誌1975年参照）北海道と南北海道と分かれていた北海道予選が統一となり、ヘッドギヤ、グローブの変更、ユニフォームの赤青色のみの使用やセカンドの資格設立と内容も変わっていきました。

競技内容の変更、全国的な部活動離れ、時代の変化に対応しながら、現在、存続しています。旭川唯一の部は北海道で2番目の部員数を維持して活動しています。ボクシングの経験が少なく、ほぼ高校から初めて行う生徒が多く、基礎トレーニング、ボクシング基礎、応用、そして心の育成を日々行っています。3年間、部活動で「入部して続けてよかった」と思えるように進めています。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で、大会の中止や日程変更、部活動の休止など、その都度の対応

が必要ですが、今しかできない経験をしっかりと行って成長させていきます。また今まで関わっていただきました前顧問の伝統を消さないように維持していきます。



全国大会に出場した部員：左から 山川(LW)・佐藤(W)・山本(M)・杉本(Pin)・田中(F)・齋藤(LF)



## 吹奏楽部

情報技術科 花田 健

## 「全校応援」

私自身顧問になり間もないのですが、印象に残っていることは、野球の全校応援です。

どの高校の野球部も力をつけ、簡単に勝てる試合はなくなってきたと考えます。特に私立の学校は実力をつけています。しかし、実力以外にも必要なことはあると考えます。その一つが応援です。どの競技でも応援があり、その応援が選手の力になります。その応援の一部にブラスバンドがあります。

令和三年度選手権大会北北海道大会旭川支部予選決勝（対旭川龍谷）が赴任して初めての応援でした。学校行事の関係上、吹奏楽部だけが学校代表で応援に行きました。考査があつたため、二回表からの応援となりましたが、その時にはすでに3対0でリードしており、しばらくチャンステーマを演奏し続けていた記憶があります。流れを相手に渡さず試合は10対0の五回コールド勝ちで北北海道大会に駒を進めました。前年は新型コロナウイルスの影響で、大会自体がなかったため、喜びはひとしおでした。そして、この勝利により全校応援をすることになる次の試合が、一番印象に残っています。

北北海道大会一回戦は、北見柏陽高校が相手でした。試合前半は、0対3でリードしていま

したが、六回、七回と点を取られ、6対3と逆転されてしまいました。しかし、八回裏の攻撃で流れを呼び戻しました。チャンスが来たので私たち吹奏楽部はチャンステーマを演奏しました。その曲には振付がありますが、野球部しか知りませんでした。野球部以外の生徒たちが、見様見真似ではありますが、一生懸命に振り付けをしていました。感染症対策のため、声が出せませんでした。少しでも選手の力になればと全校生徒が振り付けをまねて応援をしていました。その応援が届いたのか、この回に二点を返し、一点差まで詰め寄りました。九回表を0で抑え、最後の攻撃、初めから全校生徒は総立ちで応援をし、それに応えるかのように逆転サヨナラ勝ちをしました。野球部員はもちろん、全校生徒が勝利を喜びました。その後、部員たちからも「力をもらえました。ありがとうございました！」と言葉をもらい、野球の技術だけでなく、人としての成長もうかがえました。

次の滝川西高校との試合には敗れたものの、全校応援を通して、生徒一人一人の成長を感じました。私自身が野球を好きということもあり、教員歴はそこまで長くないのですが、この全校応援が一番印象に残っています。そして、野球部は毎年、定期演奏会に来てくれます。私はこの関係がとても好きです。この関係がずっと続くよう顧問として努力していきたいと思います。

## 十年の歩み

北海道吹奏楽連盟旭川地区予選結果

|       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 平成二四年 | 五七回大会 | C 編成銀賞 |
| 平成二五年 | 五八回大会 | C 編成銀賞 |
| 平成二六年 | 五九回大会 | C 編成銀賞 |
| 平成二七年 | 六〇回大会 | C 編成銀賞 |
| 平成二八年 | 六一回大会 | C 編成銀賞 |
| 平成二九年 | 六二回大会 | B 編成銀賞 |
| 平成三〇年 | 六三回大会 | C 編成銀賞 |
| 令和元年  | 六四回大会 | B 編成銀賞 |
| 令和二年  | 六五回大会 | 中止     |
| 令和三年  | 六六回大会 | C 編成銀賞 |



第15回定期演奏会(令和三年)



## 演劇部

国語科 岸下 拓磨

工業高校に演劇部があることは、非常に意義のあることです。工業高校で掲げられる「ものづくり」のマインドと、「演劇」という分野においてチームで一つの作品の完成を目指すというマインドにはとても親和性があります。しかし、令和四年現在、数ある道内工業高校の中で演劇部があるのは旭川工業高校のみです。旭工演劇部の存在は非常に貴重なものであるといえます。

私が旭工に赴任し、旭工演劇部の顧問となったのは令和以降です。私が赴任する以前にも支部大会への参加、旭川市内の高校生の合同企画である「劇団氷点華」への参加など、盛んな活動が行われてきたと聞いております。

しかし、私が赴任した令和二年度のことで、コロナ禍という向かい風は「演劇」という分野にとって、あまりに強すぎるものでした。「大声を出さなければならぬ」「接触が避けられない」といった理由で、稽古の内容も制限がされてしまいました。支部大会においても「感染予防として、無観客で行うこと」となり、保護者の方々をはじめとして、自分たちが作り上げた作品をお客様に観ていただく機会もほとんど無いようなものとなってしまいました。中止になってしまった企画や大

会も多く存在します。

そういった局面にも関わらず、現役部員達は自分たちの納得のいく作品を作り上げ、それを上演すべく、日々の活動に励んでいます。なんと、令和二年から令和四年までで、年度毎の部員数は右肩上がりが増えることとなりました。非常にありがたいことです。人数が多くなれば必然、できることが増えます。支部大会の結果も、数年間奨励賞が続いている現状があります。令和四年度は、部員一同、より工夫を考えて全道以上の大会への切符を手にするべく、稽古に励んでいるところです。

工業高校に限らず、全国的に演劇部が存在している高校は減り続けています。「高校演劇」に携わった方々はその衰退を憂いているというのが現状です。そのような中、変わらずに盛り上がりを見せている旭川工業高校演劇部は、工業高校のみならず、演劇部としても期待の持てる部なのではないかと思えます。是非、今後も応援をいただくと幸いです。



## 十年の歩み

## 高文連大会結果

|       |       |        |      |
|-------|-------|--------|------|
| 平成二四年 | 第六十二回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 平成二五年 | 第六十三回 | 上川支部大会 | 最優秀賞 |
|       | 第六十三回 | 全道大会   | 努力賞  |
| 平成二六年 | 第六十四回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 平成二七年 | 第六十五回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 平成二八年 | 第六十六回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 平成二九年 | 第六十七回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 平成三〇年 | 第六十八回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 令和元年  | 第六十九回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 令和二年  | 第七十回  | 上川支部大会 | 奨励賞  |
| 令和三年  | 第七十一回 | 上川支部大会 | 奨励賞  |





## 美術部

芸術科 福澤 等

## 「みんなが気づいていない快挙」

生徒会誌朝日子を紐解いたところによると、美術部は昭和三十八年頃に設立され、年によっては部員が集まらず活動ができないような時期もありながら、細々と現在まで続いてきたようです。

私が赴任した平成二十八年からも、最大で二十名まで増えはしたものの、盛り上がったところでなぜか三年周期で部員がほとんど入らない年が回ってきて活動に波ができてしまふ、そんな状況が繰り返されています。

人数が少なくても活発な活動ができるよう、なるべく色々な大会やコンテストに出場・出品することを心掛けています。旭川冬まつりの雪像甲子園、道展U21、純生展、ACAG、交通安全のポスターコンクール、そして風呂敷のデザインや北の漫画コンテストにも出品しました。

しかしながら美術部の大会の本命と言えば、やはり高文連です。大会前にならないとやる気が起きないのも人間の性というものですが、せっかくやっているのだから、と思い「全国大会出場！」と大きな目標を掲げてみました。

これまでの経緯を考えると無謀かな？と思いつつ、本気で掛ければ不可能ではない！と生徒たちを鼓舞したところ、二年目であつさり、情報技術科当時二年の篠沢陽菜さんが全国推薦をいただき、びっくりしました。

これ何年ぶり？と聞いても誰も知らず、記録を見てもよくわからず、他校の先生にも「いやあ、工業さんが全国って聞かないですねえ」と言われます。おそらく本校始まって以来、「初」出場の快挙、凄いですけど・・・全国慣れしている？本校においてはそれほど驚いてもいただけず、もどかしい思いをしたことを憶えています。

それでも次の年に九州の佐賀で行われた総文祭に参加させていただき、連日三十五℃に迫る気温の中でレベルの高い作品に触れ、蟬の声のシャワーを浴びながら様々な研修を行うことができたことは良い刺激となり、良い思い出となりました。

ここ数年はコロナウイルス感染症の影響で総文祭をはじめとして様々な大会が中止またはネットによる開催という形になっており、なかなか生徒たちの土気も上がらない状態になっております。コロナの収束が待ち遠しい限りですが、何とか頑張つて再びあのレベルの高い作品たちに触れる機会をゲットしてほしいと思っています。

ところで、件の全国に行った作品ですが、せっかくなので校内の目立つところに飾ってあげたいと思い、ずーっと探しているのですが、トロフィーなどがいっぱいあつて展示するスペースが見つかりません。かわいそうなことにも未だ美術準備室に放置されています。どこかに良い展示場所、ありませんか？

## ■第四十三回

全国高等学校総合文化祭

(2019さが総文)

令和元年七月二十七日～三十一日

美術・工芸部門出品作品

『veil(うゐる)』油彩F30号

情報技術科 篠沢 陽菜



## 写真部

理科 西野 朋 和

工業高校へ赴任してから四年が経過しましたが、一年目の高文連写真大会は未曾有の大地震でブラックアウトが起こり開催中止。二年目・三年目はコロナの影響で活動が制限されてきました。四年目の令和三年度に入って少しまともな活動ができました。大型スクリーンにプロジェクタで投影された写真を講評しながら撮影技術を学んだり、写真合宿と銘打った一泊二日の撮影会を実施したり、儘ならぬいなりに写真と親しみました。

記録写真ではなく、時を封じメッセージを込める芸術としての写真には「確かな技術」と「豊かな感性」が求められます。技術を向上させるには勉強と練習、感性を培うには素晴らしい被写体に数多く出会う必要があります。この二つを充実させるためには「積極的に歩き」「考えながら沢山撮る」事が最も近道になります。現在の部員はこれをしっかりと理解しているためメキメキと実力をつけています。今後の活躍が期待されます。



## 入賞作紹介

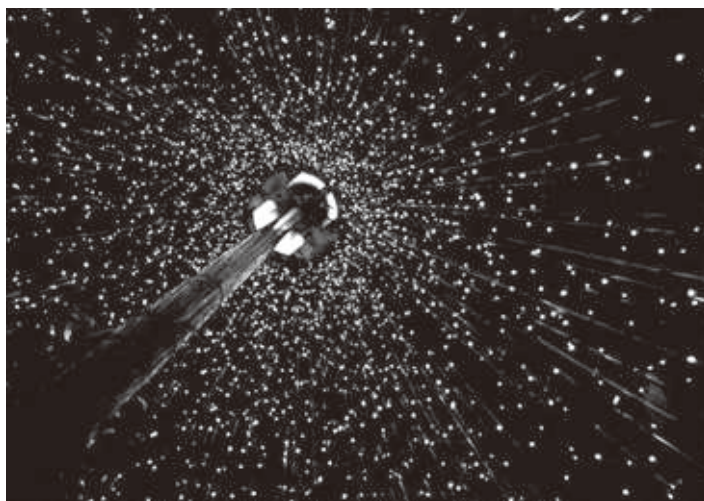
○写真専門誌「キヤパ」

令和三年二月誌面フォトコン学生部  
第三席  
鈴木 玖偲



○写真専門誌「キヤパ」

令和三年十二月誌面フォトコン学生部  
入賞  
三和 翔大



## 情報処理部

情報技術科 小檜山

淳

情報処理部は、国家資格の基本情報技術者試験合格を目指して勉強し、その過程で身に付けた知識や技術を活用して大会に参加する部活動である。

全国高校生プログラミングコンテストでは何度も入賞しており、道外にもその名を知られている。

近年では、市内で開催されているU-16プログラミングコンテストにおいて、大会運営補助や選手へのプログラミング指導に携わっている。

小中学生対象のプログラミング教育に関する取り組みは全国でも多数あるが、この活動の特徴は地域の高校生・高専生が小中学生にプログラミングを教え、教えられた児童・生徒が成長した際に今度は教える側に回るといふ、知の循環で成り立っている点である。

この知の循環による教育モデルは『旭川モデル』と呼ばれており、本校でもU-16プログラミングコンテスト参加者が当部活動へ入部し、全国高校生プログラミングコンテストで活躍している。

今後も、地域の情報技術教育への貢献のため、また、高校生のIT技術者に重要なスキルである技術力やコミュニケーションスキルの向上のため、この大会に関わっていききたい。

## 〈大会実績〉

## ●全国高校生プログラミングコンテスト

|        |    |
|--------|----|
| 平成23年度 | 5位 |
| 平成24年度 | 2位 |
| 平成25年度 | 4位 |
| 平成26年度 | 5位 |
| 平成27年度 | 5位 |
| 平成28年度 | 5位 |
| 平成30年度 | 3位 |

## ●U-16プログラミングコンテスト北海道大会

|        |          |       |
|--------|----------|-------|
| 平成26年度 | 審判委員長特別賞 | 中尾 空  |
| 平成27年度 | 出場       | 西田 樹  |
| 平成31年度 | 第三位      | 松浦 涼太 |
| 令和2年度  | 第三位      | 鶴間 匠詠 |

## ●IT・簿記選手権 IT部門 北海道ブロック

|        |    |           |
|--------|----|-----------|
| 平成23年度 | 団体 | 4位        |
| 平成24年度 | 団体 | 3位        |
| 平成25年度 | 個人 | 準優勝 坂下 順哉 |
| 平成26年度 | 団体 | 2位        |
| 平成26年度 | 個人 | 3位 長濱 拓弥  |
| 平成26年度 | 団体 | 3位 坂下 順哉  |
| 平成27年度 | 個人 | 準優勝 長濱 拓弥 |
| 平成27年度 | 団体 | 3位        |
| 平成27年度 | 個人 | 9位 高橋 祐希  |
| 平成27年度 | 個人 | 10位 桑島 星奈 |

## 〈写真〉

・U-16プログラミングコンテスト北海道大会の様子（令和元年11月3日撮影）

|        |    |         |
|--------|----|---------|
| 平成28年度 | 団体 | 3位      |
| 平成29年度 | 個人 | 5位 中尾 空 |
| 平成30年度 | 団体 | 6位      |
| 平成30年度 | 団体 | 5位      |





## 茶 道 部

電気科 横 江 美莉亜

### 一 活動内容

茶道部は週に二日、水曜日と木曜日に活動しています。月に二回ほど部活動指導員の先生が指導に来てくださり、季節のお花のことやお道具のこと、細かな所作について教わっています。放課後の活動は二時間程度で、部員が交代でポイントをし、お茶をいただきます。

入部すると、はじめに和室での過ごし方や客作法を身につけます。そのあと割稽古を経て水屋の使い方を覚え、三年間で風炉の平点前ができるように稽古します。学ぶのは点前だけではなく、おなじ釜の湯をのむという経験を通して、互いを思いやる気持ちや日々の生活に感謝する気持ちを養います。

活動する日は昼休みのうちに茶室を清め、水屋の支度をします。茶事の成功は水屋次第といわれるほど準備は大切です。あとで困らないように、効率よく衛生的に、と心がけています。

点前の動作はひとつひとつに意味があり無駄がありません。はじめは意味がわからないまま動作をなぞっていても、くり返しているとあらたな発見や気がつくことがあります。

よく準備すること、先のことを考えること、習慣づけること、このことは日々の生活においても役立ちます。そして工業人としての在り方

にも通ずるところがあると思います。

### 二 十年の歩み

六十周年記念誌によると、平成十三年当時旧茶道同好会は休止状態にあったようです。廃止になったあと、活動場所の作法室は物置状態になっていたと聞いています。

その後着任された旧職員の浦田麻衣先生のご尽力により、作法室は本来の機能を取りもどし、平成二十五年四月に新たに茶道同好会が発足しました。翌二十六年に部に昇格し、現在にいたるまで毎年十名ほどの生徒が活動しています。

旭工茶道部の特徴は男子部員が多いことです。第四十一回工高祭（平成二十六年）から毎年茶会を催し、めずらしい男子点前でお客さまの目を楽させています。令和二年、三年は工高祭茶会を開くことができませんでした。かわりに三年生が担任の先生を招き、お茶を召し上がっていただくことができました。

表千家同門会旭川支部および旭川地区青年部の皆さまには日頃よりご高配を賜り、年に数回茶会の手伝いとして参加する機会をいただいています。学校を離れふだん会うことのないひとと関わることは貴重な経験になっております。

創部より、部活動指導員の先生ならびに旭工の先生方から、お菓子の差し入れやお道具の寄贈を賜り、日々の活動が充実したものになりました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

### 三 あたらしい茶のスタイル

Covid-19 が流行し、旭工茶道部にもさまざまな影響がありました。年に一度の発表の機会であった工高祭茶会は開くことができず、ふだんの活動はマスク着用をはじめ入室時の手指消毒、黙食を徹底しています。休校や緊急事態宣言のために活動自体ができない時期を経験し、稽古ができること、お茶がいただけることはしあわせなことだと改めて感じました。

現在に伝わる茶道は時代の節目にあわせて改良されたものだと言われます。旭工茶道部も次にみなさまの前に現れるときには進化した姿を見せられるよう、日々精進してまいります。



令和二年度 茶道部

## 書道部

国語科 黒川朋寛

書道部は、発足して3年という本校の中では新しい部活動ですが、熱心で前向きな生徒達が地道に活動を続け、着実に成果を上げています。以前は男子が大多数を占めていた旭川工業高校ですが、年々女子の入学者も増え、「体育系の部活動とともに文化系の部活動もさらに充実させてはどうか」という周囲の先生方の力強い後押しもいただき、今に至っています。

書道というと、一人静かに半紙に向かい美文字の鍛錬をする、というイメージが浮かびますが、機械による印刷で整った文字を誰でも簡単に、画一的に用意できる現代だからこそ、筆で書いた「生の文字」に高い価値を見いだし、愛でて下さる方も本当に多くいらつしやいます。

書道部も発足時から、生徒会誌「朝日子」の題字や、生徒会主催の部活動壮行会のスローガンとなる四字熟語を揮毫させていただいたり、学校全体にかかわる場面において、日頃の成果を発表させていただきました。そういった活動を通して生徒達は自信と実力



生徒会誌「朝日子」の題字

をつけぐんぐんと成長してきました。

地歴公民科の野口先生が取り組まれていた「平和プロジェクト」にも何度も参加させていただき、フレイズの決定からはじめ、書道パフォーマンス的要素を取り入れて一つの大きな作品を部員全員で分担し、力を合わせて制作する活動も行いました。



そういった諸々の活動の中で書道部の生徒達自身が、相手の意見を聞き入れて協調したり、よりよい作品を制作するために意見交換をしたり、高め合ってきました。これからも書道部において文字の鍛錬を通して、子供達の心身こそがすくすくと育つてくれることを願ってやみません。

### 【活動の記録】

令和3年度

●第55回 高野山競書大会入賞者

推薦 野宮沙蘭

特選 小西桃歌

準特選 折田瑠々

金賞 佐藤弘哉・金内陽奈

●毛筆・硬筆書写検定合格者

毛筆3級 小西桃歌・野宮沙蘭

硬筆2級 野宮沙蘭

硬筆準2級 小西桃歌

硬筆3級 坂根悠華

令和2年度

●毛筆・硬筆書写

検定合格者数

硬筆2級 1名

硬筆準2級 2名

硬筆3級 2名

●高野山競書大会

コロナで中止

令和元年度

●第54回 高野山

競書大会入賞者

特選 矢野祐奈

準特選 田所風和

金賞 黒川陽海

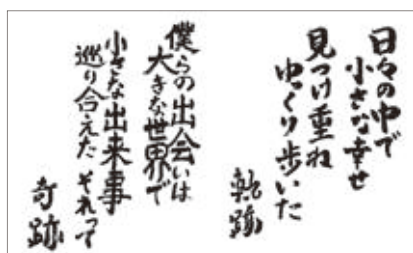
銀賞 田内菜々

宮本紗奈

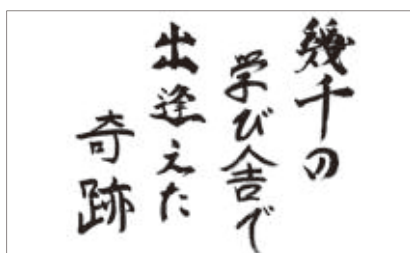
下川智紀

馬橋由奈

他



R3.書道部卒業生による卒業アルバムの題字



R元.書道部卒業生による卒業アルバムの題字

## 新聞局

国語科 岸 美千代

私が赴任した十年前、新聞局顧問は四人でしたが、この数年は現在（2022年3月末）まで三人体制で新聞局員と一緒に「工高タイムス」に関わって来ました。

十年前は七学科あり、ものづくりも部活動も活発で、どういう順番で何をどのように紙面に取り上げれば良いのか、試行錯誤を重ねました。たくさん発行をしたくても局員が少なくて思うように発行できない年もありました。

「工高タイムス」は学科の違う生徒達が生徒会活動を中心にお互いを理解し交流を深めること、「いのちの輝き」をテーマにして平和や福祉などの社会問題を集めて読者に働きかけること、卒業生や地域で活躍している人を取り進路実現について皆で考えることを意識して活動してきました。また「先生を紙面に載せるのは入学式号だけ」「部室は局員が楽しく活動できる場にす」という先輩局員からの申し送りもありました。現在は、生徒の活躍を客観的に報道するために先生方のコメントも掲載していますが、「先生よりも生徒を載せる」という心意気は他校にはあまりない姿勢でした。

二〇二一年（平成二十三年）に本校が当番校となり、高文連全道新聞研究大会を開催してい

ます。そのときの大会テーマは「いのちの輝き」で、平和の尊さや食や地産地消の大切さを全面に打ち出した大会でした。三月の東日本大震災と原発をテーマにした分科会は、高校生には無理だろうと他校顧問に心配されましたが、前向きで活発な論議ができました。二〇二二年（令和四年）も本校が当番校となり、全道大会を開催します。

新聞局の活動は地味だとよく言われますが、学校にとつてとても大切な活動です。生徒から見た学校の歴史を記録すること、取材して「今」の生徒の意見や考えを紙面化すること、それは「子どもの権利条約」や「子どもの意見表明権」「十八歳選挙権」を保障する場であるからです。読者から信頼される紙面づくりを目指し、最新の情報をなるべく早く正確に読者に届ける新聞局員達をこれからも応援してください。



令和3年の全道大会にて

## 10年の歩み 新聞コンクール受賞歴

|       | 全道高等学校新聞コンクール<br>(道高文連新聞専門部主催) | 全国高校新聞年間紙面審査賞<br>(高文連全国新聞専門部主催) | 全国高校新聞コンクール<br>(大東文化大学主催)      |
|-------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 平成24年 | 手書き・ワープロ部門 優秀賞                 | 第16回 奨励賞                        | 第42回 奨励賞                       |
| 平成25年 | 手書き・ワープロ部門 優秀賞                 |                                 |                                |
| 平成26年 | 手書き・ワープロ部門 優秀賞                 |                                 |                                |
| 平成27年 | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 |                                 | 第45回 全国高等学校新聞教育研究会賞            |
| 平成28年 | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 |                                 | 第46回 奨励賞                       |
| 平成29年 | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 | 第21回 優良賞                        | 第47回 奨励賞                       |
| 平成30年 | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 | 第22回 優良賞                        |                                |
| 令和元年  | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 | 第23回 優良賞                        | 全国高校新聞コンクールは<br>平成30年度の第48回で終了 |
| 令和2年  | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 | 第24回 優秀賞                        |                                |
| 令和3年  | 手書き・ワープロ部門 総合賞                 |                                 |                                |



## 放送局

理科 稲川 真人

主な活動は、五月のNHK杯全国高校放送コンテストと十月の高文連大会に向けた作品制作です。放課後のミーティングで部員の役割分担と進行状況を確認し、アナウンス・朗読の練習とラジオ・テレビ番組の制作に取り組んでいます。十月の高文連大会の前には管内の高校生対象の研修会を行い、放送技術の向上に努めています。

また、公に発信される番組も制作しています。ラジオ番組「りべるハイスクールレディオ」を毎月一回、テレビ番組「学生コミュニティTV」を年に三回制作しています。

校内では昼の放送のほか、入学式や卒業式などの学校行事、学校説明会、学校祭、体育大会などで音響機器の設置・調整や映像の編集なども行っています。

### 【公に発信される番組】

ラジオ番組「りべるハイスクールレディオ」

FM83.7MHz・毎週月・水曜日

22時～23時放送

テレビ番組「学生コミュニティTV」

旭川ケーブルテレビ

毎月1日更新 一日数回放送 15分番組

### 【主な活動記録】

平成二十四年度

全道大会出場（アナウンス・ラジオ・テレビ・研究発表）

平成二十五年度

全道大会出場（アナウンス・ラジオ・テレビ・研究発表）

平成二十六年度

全道大会出場（アナウンス・ラジオ・テレビ・研究発表）

平成二十七年

全国大会出場（ラジオ）  
全道大会出場（アナウンス・テレビ・研究発表）

平成二十八年度

全道大会出場（アナウンス・朗読・ラジオ・テレビ・研究発表）

平成二十九年度

全国大会出場（テレビ）  
全道大会出場（アナウンス・ラジオ・研究発表）

平成三十年

全国大会出場（研究発表）  
全道大会出場（アナウンス・ラジオ・テレビ）

令和元年度

全道大会出場（朗読・ラジオ・テレビ・研究発表）

令和二年度

全道大会出場（アナウンス・ラジオ）

令和三年度

全国大会出場（研究発表）

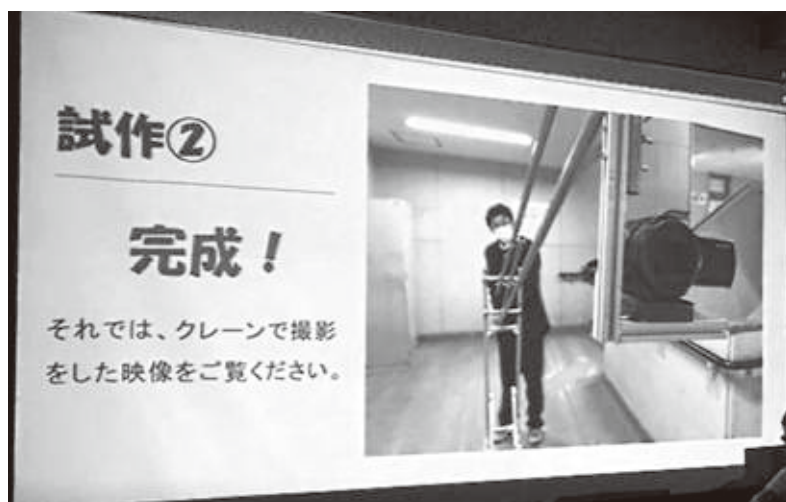
※アナウンス…アナウンス部門

朗読…朗読部門

ラジオ…ラジオ番組部門

テレビ…テレビ番組部門

研究発表…研究発表部門



## 図書局

工業化学科 松山 淳

図書局は平成二十年頃から国語科の松本和雄先生が顧問を務められていました。七十年史を読むと、選書基準を改め、話題の書籍の購入に力を入れたおかげで、来館者数が増加したことがわかります。私の記憶では、館内を新刊の表紙画像で飾ることもこの頃からだっただけだと思います。普段、数センチ幅の背表紙でしか人の目を引くことができない書籍にとって、表紙画像が常時、人の目に触れるようになってきていることは、本好きにとっては嬉しいことです。後に、松本先生に聞いたところによると、館内が老朽化し、汚れた壁を隠す目的もあつたということです。図書館に入っただけで一番目を引く書籍の表紙画像は、館内をとてとても明るく楽しい雰囲気になっています（写真上方）。

平成二九年から地歴公民科の江刺英男先生が顧問になり、新入生への部活動紹介で先生自らが希少本を抱え入局勧誘をされたことが印象に残っています。そのかいもあつてか、この頃、図書局は十数名の局員を抱え、図書局日より「韋編三絶（松本先生命名）」の発行、新刊本のカバー掛け、ポップの作成、書棚の整理などの活動を行っていました。局員たちは図書局だよりの発行にはとても頭を悩ませていたようです。

さて、図書局の活動からは少し外れますが、

この頃の司書室はとても賑やかでした。江刺先生の人柄を慕って、若手中心に多くの先生方が司書室に集まり、自分の悩みを話したり、学校の問題について憤慨したり、楽しい話題で盛り上がりつつありました。私もその中の一人でしたが、そのご縁もあつたのか、江刺先生が転出された後、令和三年から私が図書局顧問を引き継ぐことになりました。本は好きだったものの、図書局の経験のない私は多少の不安もありましたが、江刺先生と共に顧問をされていた片岡美智代先生の支えもあり、何とか現在に至っています。

さて、図書館は、松本先生の代から大きく変わった点があります。利用者の減少です。七十年史には、昼休みや放課後、館内が賑わっているところでしたが、現在では閑古鳥が鳴いている状況です。教員の利用は活発です。ただ、生徒の要望を聞き、ライトノベルや漫画を少しずつ増やしている割に、生徒の利用者数は多くはありません。貸出冊数はそれなりにありますので、本好きの特定の生徒が沢山借りているのだと思います。

図書局員も減少し、これを書いている今、たった3名です。しかし精鋭の3名ですので、これを機に図書局の活動について再考してみました。そして唐突ですが、活動にボードゲームを取り入れることにしたのです。

欧米では図書館がボードゲームを資料として収集することや、利用者が楽しむことは珍しくないそうです。日本でもこの取り組みが増えてきて、本校でも昨年十二月に体験イベ

ントを実施しました。参加生徒には非常に好評でした。



はじめてのボードゲーム大会。  
ゲームは「コヨーテ」令和3年12月22日

ボードゲームはアートワークが美しく、社会状況や歴史が取り入れられ、遊べる絵本といっても構いません。ゲームのルールには様々なメカニクスがあり、これを体験することで問題解決能力が高まります。また局員が担う「ゲームの進行者（ゲームマスター）」には、ルールを説明する能力や状況に応じてそれを改変する能力、とっさの状況判断、場を盛り上げる力、クレームの処理など様々な力が要求されます。

ボードゲームイベントの際には、館内が賑やかになりますが、図書館を管理されている黒川朋寛先生のご理解をいただき、感謝しています。

今後も、図書館が文化活動の拠点となるように、様々な企画を考えていく予定です。

## 特集

## 『第94回全国高等学校野球選手権大会出場』

平成24年、旭川工業野球部は北海道大会で優勝し7年ぶり5回目の甲子園出場を決めました。監督として過去5度の甲子園出場を経験した佐藤桂一先生に今回80周年記念誌の寄稿についてご相談をしたところ快く引く受けてくださり、当時を振り返っていただきました。

旭川工業は順当に支部予選を勝ち上がり、北海道大会へ出場を決めました。第94回大会が例年の旭川開催から帯広開催になることを見据えて早くから準備を進めていたと聞きました。

佐藤先生「彼らが入学したとき3年後、甲子園を狙えるようなチームになるのではと感じました。ちょうどその頃、北海道大会が3年後帯広市で開催されるというのを聞き、今から準備しなければと考え、年2回帯広に練習試合に出かけ、宿泊施設を決め帯広の森野球場での練習試合をこなし準備しました。彼らが3年生の夏、旭川での支部大会を優勝し、帯広での北海道大会に出場する事が出来ました。大会は厳しい試合が続きましたが彼らの頑張りで旭工5度目の甲子園出場を果たすことが出来たのは、大会中慣れ親しんだ宿泊施設に泊まり平常心で試合に臨めたことが大きな勝因だったと思います。



佐藤監督を胸上げる選手達



甲子園出場を決めた瞬間

7年ぶり5回目の甲子園出場を決め、甲子園での勝利に向けてどのような準備をして臨んだのでしょうか。

佐藤先生「一つは私の中で出場した過去4大会で初出場の時以来甲子園の試合では得点することが出来ませんでした。3試合とも相手の投手がそれぞれプロ野球のドラフトで指名された好投手で打ち崩すことが出来なかったので、対戦相手が龍谷大平安と決まってから相手投手の攻略を中心とした練習をして試合に臨み、その結果4試合ぶりに得点を上げることが出来ました。

二つめはどうしても甲子園という大舞台で選手が委縮して力を発揮できないことが過去にあったので知り合いのメンタルトレーニングコーチに指導してもらいました。その中でいつも利用しているバス会社のバスガイドさんにも協力していただき移動のバスの中でコーチと一緒に効果的なメンタルトレーニングをしてもうえました。そのバスガイドさんは試合の当日の朝も選手を迎えに来た阪神交通のバスと一緒に乗って甲子園に着くまで選手をリラックスさせてくれました。」

試合は初回龍谷大平安の1番井澤に先頭打者ホームランを打たれ、先制点を許し、2回にも追加点を奪われ追いかける展開となる。しかし3回の攻撃。先頭の栗栖が四球で出塁すると、次打者菅家の初球に佐藤監督はバスターエンドランのサインを送った。バントシフトをかけた



龍谷大平安の裏をかく攻めの采配。打球は右中間を深々と破る三塁打となり初出場時以来の得点が旭工に入った。佐藤監督の積極采配が光った場面であった。一死後岸本が同点タイムリを放ち試合を振り出しに戻す。



堂々の入場行進

5回には無死一、三塁から9番の松橋がスクイズを決めて勝ち越し。さらに暴投と岸本の安打でもう1点追加した。今回で5度目の甲子園采配となる佐藤監督。「甲子園ではおそらく初めて」というスクイズのサインだった。7回は一死一塁、打者松橋の場面で1ボール2ストライクからエンドランを敢行。松橋は空振りしたが、盗塁が成功して流れを呼んだ。その後、一死満塁と好機を広げ、押し出しと2本のタイム

リーで一挙4点を挙げた。さらに、その裏には守りで動く。井澤にこの試合2本目の本塁打を浴びて2点差とされると、官野峻稀をあきらめ、右下手投げの太田にスイッチ。北海道大会では47イニング中、46イニングを任せた絶対的エースを思い切ってマウンドから降ろした。



4大会ぶりの得点をあげた菅家選手

そして、9回も簡単に二死。悲願の甲子園初勝利まであと1人と迫った。しかしここから四球と安打にパスボールが重なり二、三塁とする。5番の有田にライト前へ2点タイムリーを打たれ同点。急遽、黒川をリリーフに送り起用に応えた黒川が後続を押さえて試合は延長戦へと突入した。延長11回に力尽き、サヨナラ負け

となったが、2万2千人の大観衆から大きな拍手が旭工ナインに送られた。



絶対的エース官野選手

名門龍谷大平安との手に汗握る大熱戦を振り返っていかがでしたか。

佐藤先生「試合は9回2死まで名門龍谷大平安高校に2点のリードをしていたながら、あとのアウトが取れず同点に追いつかれ延長で負けてしまいました。高校野球の難しさを改めて強く感じました。敗因は色々と思えますが、大きな敗因として一つは選手にベストの状態です。練習中に怪我をさせてしまったり、体調をくずしたり私の気配りが足らなかつたと後悔しています。二つめは攻撃面ではある程度采配出来まし

たが、守備面では大事なところで視野が狭まりその結果、守備位置の指示の遅れや選手交代の決断が遅れるなど自分の未熟さを痛感しました。多くの期待を背負いながらその期待に応えることが出来なかったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。」



甲子園の大観衆から大きな拍手

最後に佐藤先生から80周年を迎えた旭工野球部にメッセージをいただきました。  
佐藤先生「現在、旭工野球部の顧問の中に私の教え子でもある4名のOBがいます。大変なコロナ禍という逆境の中で熱心に後輩の指導をしています。近い将来私が果たせなかった甲子園での勝利の校歌を聴かせてくれることを信じて80周年記念誌の寄稿いたします。」



甲子園の砂を持ち帰る選手達



吹奏楽の応援も力強く後押しした

改めて甲子園に出場することの難しさ、甲子園で勝利することの大変さを感じました。佐藤先生が創りあげてくださった旭工野球部の歴史と伝統を引き継ぎ、甲子園で勝利して校歌を響かせることを私たちは追い求めていきます。佐藤先生、ご多忙の中寄稿いただきありがとうございます。

平成24年8月12日

1回戦 阪神甲子園球場（観衆2万2千人）

チーム 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 計

旭川工 0 0 2 0 2 0 4 0 0 0 0 8

平安 1 1 0 0 1 1 2 0 2 0 1X 9

※本企画の写真提供は「あさひかわ新聞社佐藤敦彦様」のご厚意によるものです。厚く御礼申し上げます。